

どこがちがう？ 慣用句の直し①

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～気もちの 場めん～

なまえ _____

ひづけ _____

- ・問1～4は 下線が 引いて ある。問5からは、気もちに 合わない 慣用句の ところに 自分で 下線を 引こう。
- ・場めん に 合う 慣用句に 直して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・問1～8は 下の 箱から えらぼう。箱の ない 問は、場めん に 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん 兄は 大会で 優勝して、メダルを かけて とくいそうに 立った。

兄は 肩身が狭かった。

→ _____

- (2) 場めん 授業中に 先生を 『お母さん』と まちがえて 呼んで しまい、みんなに わらわれた。

わたしは 鼻が高かった。

→ _____

- (3) 場めん 夏休みの 宿題が、やっと ぜんぶ 終わった。

ぼくは 頭に來た。

→ _____

- (4) 場めん 楽しみに して いた 遠足が、雨で 中止に なった。

みんなは 胸がはずんだ。

→ _____

- (5) 場めん まだ ぶりだ と 思って いた 妹が、はじめて 自転車に のれた。

家族は 腹を立てた。

→ _____

- (6) 場めん 弟が まだ 帰って こない。事故に あって いないか、心配で たまらない。

ぼくは 気が長く 弟の 帰りを 待って いた。

→ _____

- (7) 場めん 弟が ぼくの おもちゃを わざと こわした。

ぼくは 舌を巻いて 弟に どなった。

→ _____

- (8) 場めん あしたは サッカーの 大事な 試合だ。早く プレーを したくて たまらない。

ぼくは 気が重かった。

→ _____

- (9) 場めん 友だちは 毎朝 早く 来て、教室の 花に 水を やって いる。

わたしは 頭が下がる 思いだった。

→ _____

- (10) 場めん 合唱コンクールで、クラスの 歌声を 聞いて、思わず 泣きそうに なった。

わたしは 目を白黒させた。

→ _____

ことばの 箱(問1～8で つかえます。つかわない ことばも あります)

かた
肩を落とす

目を三角にする

胸を張る

耳が痛い

かた
肩の荷が下りる

気が気でない

虫がいい

顔から火が出る

うで
腕が鳴る

目を丸くする



どこがちがう？ 慣用句の直し②

なまえ _____

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～こまった 場めん～

ひづけ _____

- ・問1～3は 下線が 引いて ある。問4からは、こまった ようすに 合わない 慣用句の ところに 自分で 下線を 引こう。
- ・場めん に 合う 慣用句に 直して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・問1～6は 下の 箱から えらぼう。箱の ない 問は、場めん に 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん 弟が 何度 注意しても いたずらを やめない。

母は 手を抜いた。

→ _____

- (2) 場めん 朝から 夕方まで 歩き つづけて、もう 一歩も 歩けない ほどだった。

わたしは 足を運んだ。

→ _____

- (3) 場めん けんかを して いる 二人に、わたしが 余計な ことを 言って、もっと もめた。

わたしは 水に流した。

→ _____

- (4) 場めん 高い とびこみ台の 上に 立ったが、こわくて なかなか 決心が つかなかった。

ぼくは 胸を張って いた。

→ _____

- (5) 場めん お店は お客さんで いっぱいで、いそがしくて たまらない。

店の 人は 猫の手も借りたい ほどだった。

→ _____

- (6) 場めん ふいに 後ろから 水を かけられて、びっくりして あわてた。

ぼくは 鼻が高かった。

→ _____

- (7) 場めん テストの 前の日 に なって、まだ 少しも 勉強して いない ことに 気づき、どうして よいか わからなく なった。

ぼくは 肩の荷が下りた。

→ _____

- (8) 場めん みんなが 楽しく 話して いたのに、友だちが 急に 暗い 話を はじめて、その 場が しらけて しまった。

友だちは みんなの 話に 水を差した。

→ _____

- (9) 場めん 広い 校庭の 草むしりを ひとりで ぜんぶ したら、とても たいへんだった。

この 草むしりは 朝飯前だった。

→ _____

- (10) 場めん ひどい うそを つかれて、あきれて 何も 言えなくなった。

わたしは 舌が回った。

→ _____

ことばの 箱(問1～6で つかえます。つかわない ことばも あります)

火に油を注ぐ

目を白黒させる

足が棒になる

とら
虎の子

手を焼く

白羽の矢が立つ

ふ
二の足を踏む



どこがちがう？ 慣用句の直し③

なまえ _____

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～人との かかわりの 場めん～

ひづけ _____

- ・問1～2は 下線が 引いて ある。問3からは、人との かかわりに 合わない 慣用句の ところに 自分で 下線を 引こう。
- ・場めん に 合う 慣用句に 直して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・問1～4は 下の 箱から えらぼう。箱の ない 問は、場めん に 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん 重い にもつを 一人では 運べなかった。

友だちが 足を引っ張って くれた。

→ _____

- (2) 場めん 友だちの ひみつを、うっかり 話して しまった。

ぼくは 口が堅^{かた}かった。

→ _____

- (3) 場めん 父は どこへ 行っても、知り合いに 声を かけられる。

父は とても 顔が広い。

→ _____

- (4) 場めん クラスの みんなが 同じ 意見だった。

みんなは 口を挟^{はさ}んだ。

→ _____

- (5) 場めん 兄と 弟が けんかを した とき、母は 弟だけを かばって、味方 に なった。

母は 弟を 鼻であしらった。

→ _____

- (6) 場めん 新しい 友だちと 話すとき、好きな ものの 考え方も 同じで、すぐに なかよく なった。

わたしたちは 犬猿^{けんえん}の仲だった。

→ _____

- (7) 場めん けんかを した 友だちと、思っ てる ことを かくさずに ぜんぶ 話した。

ぼくは 猫^{ねこ}をかぶって 話した。

→ _____

- (8) 場めん 先生が 大切な 話を して いたので、みんな しずかに よく 聞いた。

みんなは 先生の 話に 耳にタコができた。

→ _____

- (9) 場めん 大玉おくりで、クラス全員が 気持ちを 合わせて 同じ ペースで 動いた。

クラス全員が 大きな顔を した。

→ _____

- (10) 場めん おばあちゃんは、庭の 花を 毎日 世話して、大切に 育てて きた。

おばあちゃんは 花を 手塩にかけて 育てた。

→ _____

ことばの 箱(問1～4で つかえます。つかわない ことばも あります)

口をそろえる

図に乗る

手を貸す

腹黒い

口が滑^{すべ}る



どこがちがう？ 慣用句の直し④

なまえ _____

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～がんばりと 結果の 場めん～

ひづけ _____

- ・問1は 下線が 引いて ある。問2からは、がんばりや 結果に 合わない 慣用句の ところに 自分で 下線を 引こう。
- ・場めん に 合う 慣用句に 直して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・問1～2は 下の 箱から えらぼう。箱の ない 問は、場めん に 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん ピアノを もっと じょうずに なりたくて、毎日 練習を つづけた。

ぼくは 油を売った。

→ _____

- (2) 場めん 転校生の 絵が とても じょうずで、すっかり 感心した。

わたしは 鼻を折った。

→ _____

- (3) 場めん 入学したばかりの 弟が、水泳の 大会で、みんなが おどろく ほど 速く 泳いで 注目された。

弟は 水泳の 大会で 二の舞^まを演じた。

→ _____

- (4) 場めん 習字を 毎日 つづけたら、字が 前より ずっと きれいに なった。

ぼくは お茶^{にこ}を濁した。

→ _____

- (5) 場めん ずっと 勝てなかった 兄と、ついに 同じくらいの 力に なった。

ぼくは ついに 兄と 雲泥^{うんでい}の差だった。

→ _____

- (6) 場めん なんとなく 引いた くじで、一等が 当たった。

これは ぼくに とって 水の泡^{あわ}だった。

→ _____

- (7) 場めん 司会を 一年 つづけたら、すっかり なれた。

ぼくの 司会は すっかり 板についた。

→ _____

- (8) 場めん マラソン大会で、足が いたくても、くやしさに たえて 走りぬいた。

ぼくは 気を抜^ぬいて 走りぬいた。

→ _____

- (9) 場めん クラスの みんなは、ゆうきさんの 努力を 見て、すごいと みとめた。

みんなは ゆうきさんに 背を向けた。

→ _____

- (10) 場めん この 店の ケーキは 味が たしかだと、だれもが みとめて いる。

この 店の ケーキの 味は 根も葉もない。

→ _____

ことばの 箱(問1～2で つかえます。つかわない ことばも あります)

蛙^{かえる}の子は蛙^{かえる}

腕^{うで}を磨^{みが}く

木で鼻をくくる

舌を巻く



どこがちがう？ 慣用句の直し⑤

なまえ _____

場めんに 合わない 慣用句を 直そう～いろいろな 場めん～

ひづけ _____

- ・下線は 引いて ない。場めんに 合わない 慣用句の ところを 見つけて、自分で 下線を 引こう。
- ・場めんに 合う 慣用句を 自分で 思い出して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・箱は ないよ。場めんに 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん ゆかに 落とした 小さな ビーズを、ひとつも 見のがさない ように、ゆかを じっと 見て さがした。

ぼくは 目を三角にして さがした。

→ _____

- (2) 場めん ずっと わからなかった 算数の 問題が、先生の ひとことで 急に 分かった。

ぼくは ^{かた}肩を落とした。

→ _____

- (3) 場めん ぜんぜん 練習しないで 本番を むかえた。

練習しないで 本番に のぞめば、失敗する ことは 火を見るより明らかだ。

→ _____

- (4) 場めん お店の ショーケースに ならんだ 新しい ゲームが、ほしくて たまらない。

ぼくは 二の足を踏む ^ふほど ほしかった。

→ _____

- (5) 場めん 夜の 暗い 道で、後ろから 急に 大きな 音が して、ぞっと した。

わたしは 胸が熱くなった。

→ _____

- (6) 場めん どちらに するか まよって いたが、さいごは 思いきって やって みる ことに 決めた。

ぼくは ^{こし}^ぬ腰を抜かした。

→ _____

- (7) 場めん 二人の 兄弟は 顔も 声も そっくりで、見分けが つかない。

あの 兄弟は 水と油だ。

→ _____

- (8) 場めん ぼくは 強い 先ばいに 練習の 相手を たのんだ。

ぼくは 強い 先ばいの 胸を借りて 練習した。

→ _____

- (9) 場めん ひと月の お手つだいの お礼は、これだけかと 思う ほど わずかだった。

もらった お金は ^{ねこ}猫の額だった。

→ _____

- (10) 場めん 朝から なんとなく いやな 予感が して いたら、夕方 おじいちゃんが 入院したと 電話が あった。

あの 朝の 予感 ^こは 取り越し苦労だった。

→ _____

